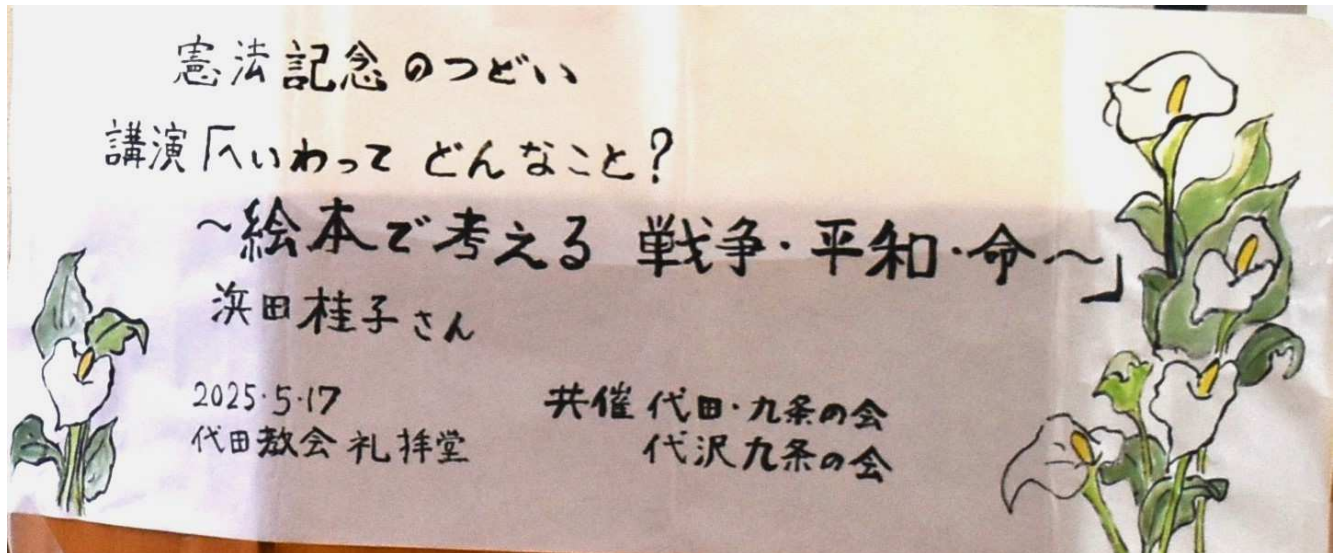




作成・岩瀬薫さん

5月17日(土)午後、代田教会礼拝堂に於いて、代田九条の会・代沢九条の会共催で「憲法記念のつどい」を開催しました。

1. 教会の平野 克己牧師よりあいさつがありました。

平野牧師は代田教会に赴任して25年になるとのこと。荒れ地に川、新しい道を。新しい何かが起ころうとしている、と。また、宇宙論=閉じているのか、開いているのか、歴史の見方には2つあり、先にあったことを思い起こすことで新しいことが生まれる。日本国憲法は新しい、などと話されました。

2. 絵本作家・画家の浜田桂子さん

講演「へいわってどんなこと? ~絵本で考える戦争・平和・命」

①「平和絵本」は何を伝えるのか

子育て時代の「平和絵本」への疑問 80年代は戦争のひどさを伝えていた、こうなったら大変。(消去法)→子供たちの意見は、怖い・昔の人は大変だったね。人権が守られること

② 日・中・韓 平和絵本プロジェクトを立ち上げる

2005~2006年日本の絵本作家4名(田畑精一 田島征三 和歌山静子 浜田桂子)が中国・韓国の作家に平和絵本作りを呼びかける

*2006年第一次安倍内閣 教育基本法改悪 道徳教育導入

2006年 韓国・ソウルを4人で訪問 4人の絵本は

韓国で出版されており読者との対話集会が企画された

2007年 中国・南京に3国の作家12名と出版社が初めて集合。中国政府関係者の挨拶があった。

各作家は、作りたい平和絵本について語り、議論。

1人1冊、3国共同出版とする

夜ホテルの一室で作家だけでどんちゃん騒ぎ→人と人が直接会う意味の大切さ

試作本での意見交換 韓国作家の批判 日本作家の指摘

2011年「へいわってどんなこと」日本、中国、韓国で出版

(次ページに続く)



写真撮影：小澤満吉さん

- ③ 絵本「へいわってどんなこと？」を作る
 2019 年香港、2021 年ベトナム出版 他
 2020 年 hong kong book prize 受賞
 2022 年滋賀大学とウクライナ・ドニプロ大学の学生たちの取り組み
- ④ 子どもたちとの語り合ういのちとへいわ
 2013 年 東京、ピョンヤン ソウル・韓国
 気仙沼 こどもたちの意見
- ⑤ 子どもたちのつぶやきを集めた絵本
 『「はい」「いいえ」ほうこく』
 生きるために必要な「はい」「いいえ」が
 はっきり言える権利

- *戦争を拒否し平和をつくっていくために
 ・加害の歴史を学び国境を越えた連帯へ
 ・自分を大切に思える力は平和をつくる支柱
 ・日本国憲法の希望
- *スライドの説明を交えて予定時間を超えてお話された。

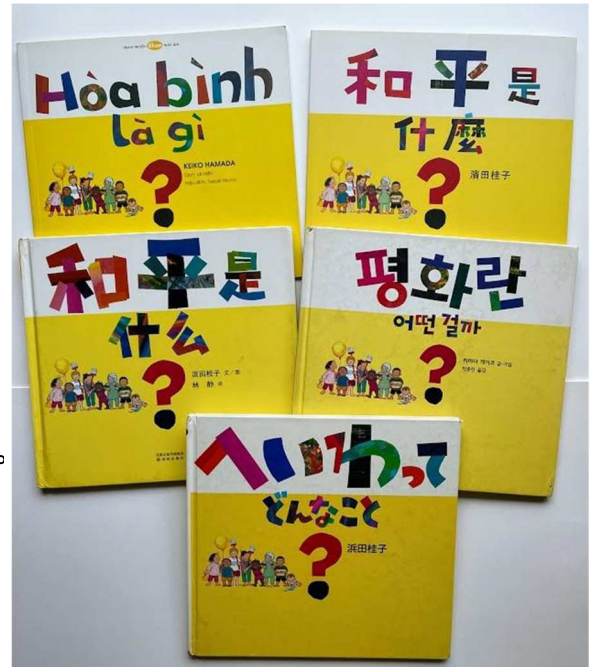
3, 質疑討論

- ① 中国在住の経験者から、日本の侵略戦争の中で中国人は被害者意識が強い。その点を踏まえて取り組むことが重要だと思います。
 → 歴史を踏まえて行いたいと思います。
- ② 他の作家さんはどんな本をつくられたのですか。
 → 田畑 精一さんは「さくら」、和歌山 静子さんは加害を描いた「くつがいく」、田島 征三さんは「ぼくのこえがきこえますか」など 11 冊作成しました。図書館にありますので。
- ③ パレスチナのガザ地区で臓器欠損児が増加していると報道されていますが、絵本作家さんたちで何か取り組む計画はありますか。
 → 絵本作家 20 人で「つながる世界」展覧会を行います。6 月京都、8 月東京です。是非いらっしゃって下さい。

- *大雨であったため参加者は、23 名でしたが国際色豊かな内容の濃い会でした。
 *終了後 サイン会実施。
 (代田 5 丁目・九条の会事務局・小澤 清子)

絵本『へいわってどんなこと？』を作る

日常の平和の姿をはっきりさせたい。
 平和のうれしさとよろこびを表現したい。
 生まれてきたことのすごさ 命の尊さを描きたい。



ベトナム版 (2021 年)	香港版 (2019 年)
中国版 (2012 年)	韓国版 (2011 年)

へいわって
 ぼくがうまれて
 よかったということ。



いやなことは いやだって
 ひとりでもいけんが いえる。



気仙沼・日本の子どもたちの意見 スライドから

- *人間だけではなく、植物や虫、動物も大事にされることが平和だと思います。(小3男子)
- *私にとって、平和なことは家族といっしょにいられます。津波で家を流されましたが、家族はみんな無事でした。幸せなんだと思いました。(小3女子)
- *国と国どうしがどんなに仲がわるくても戦争はしてはいけない、人を殺し合う戦争はしてはいけないことだと思います。(小6女子)
- *平和って、だらだらできることです。(小6男子)

感想

絵本“へいわってどんなこと?”の1ページ目。暗い空に真っ黒な飛行機。そして「せんそうをしない」とただ一言。もとは、受け身の表現だったのを仲間の作家さんたちの意見を受けて悩んだ末に書き直したとのこと。いいなあと思いました。①子供たちに読んであげるときに、怖がる子供たちを“大丈夫だよ”と抱きしめるだけではなく、君も一緒に戦争のない世界を作ろう!と励ますことができる。②そしてこれは憲法9条の心そのものです。

(代田2丁目・伊東 光子)

アンケートから 浜田 桂子さんのお話について

- ・とても良かったです。こどもたちに伝えたいワークショップですね、
 - ・日本の戦争中の他国への加害を、いかにあがなうことができるのか、難しいことと考えていました。人と人、心と心の交流が、こんなに輪を拡げ得るのだと、浜田さんのお働きに目を見張りました。
- 日本で出版できなかったハルモニの本のこと、そのいきさつ、このプロジェクトの重さ、関わったみなさまの勇気を想いました。おつうのように身を削って織りあげた作品なのですね。子どもに語りかける本ということで難しい工夫があるとのこと。大切なことをわかり易く伝えるのが一番難しいと聞きます。各国の子どもたちの感想をいろいろと聞けて良かったです。未来を創る人たちに希望を感じました。
- ・もっとも感銘を受けた「憲法記念のつどい」でした！
- 本当に大切なことを誰でも理解できる絵本というツールを通して子どものみならず全ての人に教えてくださると思いました

集 会 等 の 紹 介

5月31日(土) 14:00～16:00 **憲法交流会**

「憲法を語ろう、生かそう。政治を変えよう」

山田 聡美・弁護士の報告

世田谷地域のみなさんの憲法運動の経験交流

渋谷共同法律事務所の弁護士の活動報告

場所 : 北沢タウンホール3F ミーティングルーム

共催 : 渋谷共同法律事務所&「生かそう憲法!今こそ9条を!世田谷の会」

6月28日(土) 14:00～16:45 **第9回九条の会全国交流集会(オンライン)**

参加対象: 各地・各分野の九条の会、呼びかけ人、世話人、事務局、運営スタッフ、など。

場所 : ZOOMを使用するオンライン集会

主催 : 九条の会事務局

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～

+++ このニュースを、ぜひ、周りの人に広めてください。 +++

沖縄の今を伝える

十年ほど前、誘われて沖縄に初めて行ってきました。

みんなであっちへ行ったり、こっちへ行ったり。でも一人で、ひめゆり記念館に行き、一枚一枚、壁に掛けられた女生徒の写真を見て涙が止まりませんでした。戦後生まれの自分でも、やはり戦争を少しは知っているのかな。映画、本、テレビなどで今の若者たちより接する機会が多かったのだと思います。先生方はみな戦争経験者でした。

そして基地のために延々と続く鉄柵がとても印象的。

高校教師を途中でやめて沖縄に永住の西浦昭英氏の覚悟も潔いと思いました。

戦前までは、沖縄の人は内地では外国人扱いされ、なかなか就職もままならなかったよう。

「嫌な物（事）は、より弱く、小さく、そして人の少ない場所に押し付ける構造がある」とある牧師は言っているそうです。沖縄がちょうどそれに相当するようです。

自然豊かな辺野古の海が日々埋め立てられて、人類の遺産が軍備のために消滅しそうになっているのに阻止する力があまりにも弱いのが悲慘。

戦後八十年も経っているのに、今でもアメリカの顔色をうかがって大事なものをなくそうとしている。自分は反核は当然、反軍備を目指したい。その向こうに真の平和があるように思う。

（梅丘1丁目・湯沢 勉）

「未来は変えられる！戦争ではなく平和な暮らし！

2025 憲法大集会」に参加して

5月3日有明防災公園に行ってきました。代田九条の会から3人参加。"代田九条の会"ののぼり旗を掲げていると、梅丘在住の会のニュースを届けているご夫妻(+2名)、大原1丁目の府中九条の会の方など、声をかけて下さいました。世田谷九条の会の福島さんともちょっと遠くからご挨拶、旗が目印になるようです。他にも参加された方がいるかもしれません。

「公園で chill」のおふたり(chill はまったりするという意味)と、小笠原もずくさんの歌声から始まりました。

開会あいさつは、総がかり行動実行委員会共同代表の菱山南帆子さん、メインスピーチは、中央大学名誉教授(憲法学)植野沙実子さん、日本原水爆被害者団体協議会の田中熙巳さん、政治経済評論家・元経産省の古賀茂明さんでした。田中熙巳さんは、93歳、初めて生でお話しが聞け感激です。ノーベル平和委員会は80年間核戦争を起こさせなかった日本被団協の役割を評価し、その役割をもう一度果たしてほしいと平和賞を授与したと。この運動を若い方たちに継承してほしい。いっしょに戦争も核兵器もない世界をつくりあげましよう、と、力強く訴えられました。

政党からは、立憲民主党から辻元清美代表代行、日本共産党から田村智子委員長、れいわ新選組からくしぶち万理共同代表、社民党から大椿ゆうこ副党首、参院会派「沖縄の風」から伊波洋一代表があいさつされました。

各分野のリレートークでは、沖縄出身で慶應大学4年の崎浜空音さんが、沖縄の現状を変えたいと訴え。「SRHR 市民社会レポートチーム」の高井ゆと里さんが、トランスジェンダーの当事者だが、憲法はジェンダー平等への道筋を示していると、性と生殖に関する健康と権利、ジェンダーの視点からスピーチ。日本ボランティアセンターの高橋千紘さん・源島菜月さんが、ガザの危機的状況を報告、パレスチナ人から届いたメッセージを代読、涙なしには聞けませんでした。私には何ができるのか、考えさせられます。

市民連合・東大名誉教授の佐藤学さんからは連帯のあいさつ。日本学術会議法案の危険性と採択させない運動の訴え。最後に憲法共同センターの小田川義和さんから行動提起がありました。それぞれの人が憲法について語り、戦争へと進む道か憲法を精神を生かし平和への道を進むのか、分岐点だと思います。参議院選挙も大事です。

集会の途中で、参加者でメッセージを掲げてアピールしますが、3枚のうち1枚は「ジェンダー平等いますぐ実現！」でした。何回か参加していますが、ジェンダーの視点を強く感じます。

（代田4丁目・萱野 幸子）

